よろこびの知らせ

―礼拝メッセージより―

39

よろこびの知らせ
第39集

目　　次

無益から有益へ ……………………………………………… 1
コロサイ 4:7-9

エパフラスの祈り …………………………………………… 10
コロサイ 4:12-13

感謝の生活 ………………………………………………… 18
コロサイ 3:15-17

ここに収められたメッセージは、2022年11月にテキサス州プレーノ市にある永楽長老教会の日本語礼拝で語られたものです。聖句は新改訳聖書第二版より引用しています。

© 2022, Philip Nakao

無益から有益へ
コロサイ 4:7-9

4:7 私の様子については、主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべであるテキコが、あなたがたに一部始終を知らせるでしょう。
4:8 私がテキコをあなたがたのもとに送るのは、あなたがたが私たちの様子を知り、彼によって心に励ましを受けるためにほかなりません。
4:9 また彼は、あなたがたの仲間のひとりで、忠実な愛する兄弟オネシモといっしょに行きます。このふたりが、こちらの様子をみな知らせてくれるでしょう。

コロサイ 4:2 以下は、この手紙の結びの部分です。それまではずっと教えが中心でしたが、ここからは手紙らしい部分になります。2-6 節ではパウロの祈りの課題が、7-8 節には、この手紙を届ける人、テキコについて、9 節にはテキコといっしょにコロサイに向かうオネシモについて書かれています。きょうは、このオネシモについてお話しします。

一、オネシモの逃亡

その前に、ピレモンのことを話しておかなければなりません。ピレモンはコロサイ教会で指導的な立場にある人でした。ピレモンはパウロから「同労者」と呼ばれ、信仰においても、愛においてもすぐれた人でした。パウロはピレモンに宛てた手紙で「私は、祈りのうちにあなたのことを覚え、いつも私の神に感謝しています。それは、主イエスに対してあなたが抱いている信仰と、すべ

ての聖徒に対するあなたの愛とについて聞いているからです」（ピレモン 1:4-5）と書いているほどです。

ピレモンは信仰と愛とに恵まれていただけでなく、資産においても恵まれていました。多くの財産を持ち、また、そうしたものを管理するしもべたちを何人か持っていました。そのひとりがオネシモでした。しもべたちは身分の上では「奴隷」でした。当時、ローマに征服された国の国民はみな奴隷となりました。ローマの市民権がなければ、ローマの制度では身分は奴隷だったのです。身分は奴隷でも、学問や芸術、また土木や機械などの専門の技術、経営や管理の分野で活躍した人たち、皇帝や貴族の子弟の教師になった人々もありました。奴隷だからといってすべてが重労働を課せられ、過酷な扱いを受けたわけではなかったのです。

コロサイ 4:1 に「主人たちよ。あなたがたは、自分たちの主も天におられることを知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい」と教えられています。キリスト者の主人は自分も、しもべたちも、同じ一人の主の下にある「しもべ」であることをわきまえて、身分が奴隷、立場がしもべである人たちをも大切に扱いました。ピレモンも、奴隷であったオネシモにも、能力に見合った責任を与え、自分の財産を任せ、大切にしていたことでしょう。

ところが、オネシモは、どんな不満があったのか、ピレモンのもとから逃亡しました。当時、逃亡奴隷には死刑の刑罰が待っていましたから、オネシモも必死だった

と思います。逃走資金も必要だったでしょうから、オネシモは主人ピレモンからお金を盗んで逃げたかもしれません。パウロは、ピレモンへの手紙に「もし彼があなたに対して損害をかけたか、負債を負っているのでしたら、その請求は私にしてください」（1:8）と書いていますが、オネシモが主人のピレモンに大きな損害をかけたことは間違いありません。

二、オネシモの回心

犯罪を犯した人が身を隠すのに最適な場所は大都会です。オネシモも、大勢の人の中に紛れ込み、名前を変え、身分を偽って生活しようとしました。しかし、そうした生活ほど惨めなものはありません。いつ自分の素性が露見するか、逃亡奴隷として罰を受けなければならないかと思うと、何の平安もありませんでした。オネシモは毎日を恐れの中に生きていたのです。彼は、その身分だけでなく、霊的にも奴隷でした。「罪の奴隷」だったのです。

そんなオネシモが、パウロのところに来て、パウロと一緒に生活するようになりました。このときパウロは「囚人」で、「牢」に繋がれていましたが、「牢」といっても、そこはパウロが自費で借りた家でした。手に鎖をかけられ、ローマ兵の監視のもとに置かれ、外出は許されませんでしたが、来る人を迎えることはできました。実際、パウロの「牢」には多くの人が出入りしていました。

どういう経緯でオネシモがパウロのもとに来たのか、

聖書は何も語っていません。これは、私の想像になりますが、おそらくは、パウロがオネシモを探し当て、自分のところに引取ったのではないかと思われます。ピレモンとパウロは親しい間柄でしたから、当然、ピレモンはオネシモのことをパウロに知らせ、祈ってもらっていたと思います。そして、もし、オネシモがローマに逃げてきていたら、彼を見つけ、キリストに導いてほしいと、パウロにお願いしていたことでしょう。パウロは囚人の身で、軟禁状態にありましたから、自分でオネシモを探しに行くことはできませんでしたが、パウロには、ローマに来る前からローマに多くの知り合いがありました。ローマに来てからは、もっと多くの人々との交流がありました。ローマ中のキリスト者たちが協力し、オネシモを見つけ出し、彼を説得してパウロのところに連れてきたのだと思います。

　パウロは、オネシモを、自分の身の回りの世話をする者として雇いました。そのことによって、オネシモがもはや逃亡奴隷ではなく、ピレモンからパウロが譲り受けた奴隷としての立場を持つようになるためでした。オネシモはもう、逃げ回る必要がなくなりました。パウロから、思いもよらない恵み深い扱いを受けたとき、オネシモは主人ピレモンを思い出したことでしょう。パウロの持つ愛も、ピレモンが示してくれた愛も同じだということに気付きました。そして、それがキリストの愛から来たものであることが分かったのです。そして、それが分かったとき、自分の犯した罪がどんなに大きなもので

あったかに気付きました。オネシモは、悔改め、イエス・キリストを信じる信仰へと導かれました。罪の奴隷から、神の子どもへと生まれ変わったのです。

当時、指導者は「父」、その弟子は「子」と呼ばれました。オネシモは、聖霊によって父なる神の子どもに生まれ変わったのですが、地上の関係では、パウロがオネシモを信仰に導き、育てたので、パウロはオネシモの信仰の「父」、オネシモはパウロの信仰の「子」となりました。ピレモンへの手紙で、パウロがオネシモを「獄中で生んだわが子」（ピレモン 1:10）と呼んでいるのは、そのようなことを意味しています。パウロはこのときおよそ 65 歳で、オネシモはまだ若かったと思います。年齢的にも、「父」と「子」のようだったでしょう。神に立ち返ったオネシモは、「子」が「父」に仕えるようにして、パウロに仕えました。

三、オネシモの帰還

パウロはオネシモをずっと側に置いておきたかったでしょうし、オネシモもパウロの側にいたかったでしょう。しかし、オネシモが主人ピレモンのもとに帰る日がやってきました。パウロは、もうすぐ自分が解放され、再び伝道旅行に出発する時が近づいていることを予感していました。それで、オネシモをピレモンのもとに送り返すことにしたのです。

パウロはこのとき、三つの手紙を書きました。一つは「エペソ人への手紙」で、もう一つは「コロサイ人への手紙」、そして、三通目が「ピレモンへの手紙」です。

「エペソ人への手紙」と「コロサイ人への手紙」はテキコが持参し、それぞれエペソの教会とコロサイの教会に届けられました（エペソ 6:21-22 参照）。パウロはテキコにオネシモを託しました。おそらく、テキコのしもべという立場で、オネシモが、逃亡奴隷の疑いをかけられることなく、安全に旅行できるためだったのでしょう。そして、パウロは、オネシモには「ピレモンへの手紙」を預けました。テキコとオネシモがコロサイに着いたとき、オネシモはテキコと別れ、主人ピレモンの家に向い、ピレモンにパウロからの手紙を渡したと思います。

　その手紙には、こう書かれていました。「オネシモを、あなたのもとに送り返します。…もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、すなわち、愛する兄弟としてです。…私を迎えるように彼を迎えてやってください。」（ピレモン 1:12-17）ピレモンは、パウロの手紙通りにオネシモを受け入れました。オネシモもピレモンに罪を詫び、ピレモンの寛大な処置に感謝し、真実な心でピレモンに仕えたことでしょう。逃亡奴隷がもとの主人のもとに帰る。そんなことは、この時代にはありえないことでした。しかし、その「ありえないこと」が起こりました。それは、オネシモが、まず神に立ち返り、キリストを信じる者になったからです。

　パウロは、コロサイ 4:9 で、オネシモを「あなたがたの仲間のひとりで、忠実な愛する兄弟」と呼んでいます。それは、コロサイでは逃亡奴隷としてしか知られていなかったオネシモを、信仰の仲間に、神の家族の兄弟姉妹

のひとりとして、受け入れるよう促す要請の言葉でもあったと思います。キリストの愛が、キリスト者を互いに結びつけます。キリストにあっては、自由人も奴隷もなく、ともに一つの家族、兄弟姉妹なのです。どの古代の帝国もそうでしたが、ローマ帝国は奴隷の労働によって支えられていました。奴隷制度が無くなることは、ローマ帝国の滅亡を意味していました。ですから、ローマでは奴隷解放運動は起りませんでした。しかし、霊的な奴隷解放、つまり、人がキリストの十字架の愛と復活の力によって罪の奴隷から解放されることは、奴隷制度によって支えられていたローマ帝国の只中で始まったのです。それはまたたくまにローマ帝国内に広まり、人々の人生を変え、やがて奴隷制度をも変えました。

パウロはピレモンに、オネシモのことを、「彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています」（ピレモン 1:11）と言いました。じつは「オネシモ」という名前には「役に立つ者」、「有益な者」という意味があります。ところが、オネシモは、その名と正反対のことをして、「役に立たない者」、「無益な者」となってしまったのです。しかし、神の恵みによって、オネシモはその名の通り「役に立つ者」、「有益な者」へと変えられました。

コロサイ 4:7-17 には「テキコ、アリスタルコ、マルコ、ユスト、エパフラス、ルカ、デマス、ヌンパ、アルキポ」といった人々の名前が出てきます。どの人も長

年、パウロとともに伝道の働きに携わってきたパウロの同労者たちです。パウロは、そうした人々の中にオネシモを加えました。そして、「このふたりが、こちらの様子をみな知らせてくれるでしょう」と言って、オネシモを自分の使者の一人であり、信頼できる人物として、コロサイの人々に推薦しました。イエス・キリストの救いは、人を「罪の奴隷」から「神の子ども」へ、「無益な者」から「有益な者」へ、さらに「キリストの使者」と造り変えるのです。

　私たちも、イエス・キリストを信じる前の人生を振り返ると、無益な生活をしてきたことに気付きます。しかし、神は、そんな私たちを、神にとっても、社会にとっても有益な者として造り変えてくださいました。私たちだけでありません。世界中の何と多くの人が、神なく、望みのない生き方から救われ、神の愛により、キリストの恵みにより、聖霊の力によって有益な者に変えられてきたことでしょうか。

　きょうの箇所は、「ピレモンへの手紙」と合わせて読むとき、私たちに大きな慰め、励ましを与えてくれます。イエス・キリストは、罪を赦してくださる。人を造り変えてくださる。大きな愛でご自分のうちに迎え入れてくださる。キリストにあって、無益な人など誰もいない。キリストの目には、一人ひとりが、赦されている存在、新しい存在、神の家族、そして有益な者なのです。これが「福音」（グッド・ニュース）です。私たちはこの福音を聞いて、信じて、救われました。この福音が

もっと多くの人に証しされ、より多くの人が幸いな人生を始めることができるよう祈りましょう。

（祈り）

　父なる神様、罪のために「無益な者」だった私たちを、あなたは、イエス・キリストによって「有益な者」として造り変えてくださいました。あなたの大きな恵み、あわれみを心から感謝します。この週も、「キリストにある自分」を再確認して、あなたの愛のうちに、キリストの恵みのうちに、そして、聖霊の交わりのうちに歩む者としてください。主イエス・キリストのお名前で祈ります。

エパフラスの祈り
コロサイ 4:12-13

4:12 あなたがたの仲間のひとり、キリスト・イエスのしもべエパフラスが、あなたがたによろしくと言っています。彼はいつも、あなたがたが完全な人となり、また神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう、あなたがたのために祈りに励んでいます。
4:13 私はあかしします。彼はあなたがたのために、またラオデキヤとヒエラポリスにいる人々のために、非常に苦労しています。

一、エパフラスの挨拶

コロサイ人への手紙の結びの部分で、パウロは、「アリスタルコからよろしく…マルコからも…ユストからもよろしく…エパフラスからよろしく…」と、一緒にいる人たちからの挨拶を伝えています。「よろしく」と訳されている言葉は、もとの言葉（ἀσπάζομαι）には「挨拶します」という意味があって、原文では「アリスタルコが挨拶します…エパフラスが挨拶します」となっていますが、そのままでは、日本語にならないので、「よろしく」と訳されています。

では、パウロが挨拶をとりついだアリスタルコやマルコ、ユストやエパフラスは、どんなつもりで「よろしく」と言ったのでしょうか。おそらく、「祈ってください。私たちも祈っています」ということではないかと思います。パウロは人々に「祈りなさい」（2 節）と勧めただけでなく、「私たちのためにも、…祈ってください」（3 節）と言っています。そして、エパフラスについて

は、「彼は…あなたがたのために祈りに励んでいます」（12節）と証ししています。「エパフラスからよろしく」には、「エパフラスは皆さんのために祈っています。皆さんも彼のために祈ってください」というメッセージが含まれていると思います。

神を信じない人も手紙に「ご多幸をお祈りいたします」などと書きます。そう言って心に留めてくれるのはありがたいのですが、実際に祈ってくれるわけではありません。しかし、キリスト者の場合は違います。本当に祈ります。以前、日本に山室軍平という救世軍の指導者がいました。明治、大正、昭和にかけて活躍し、日本の伝道や社会福祉に大きな貢献をした人です。この山室軍平先生は、「あなたのために祈ります」と手紙に書いたあと、必ずその場で、その人のために祈りを捧げてから、それを送ったと伝えられています。今では、手紙を書くことが少なくなり、メールやテキストを送るほうが多くなりました。その時 Praying hands（🙏）などの絵文字を使うことが多いと思います。その絵文字を使ったときは、実際に神に祈り、それから「送信」をクリックしたいと思います。

「祈ります」、「祈っています」、「祈っていました」が互いの心からの挨拶になる。これは、イエス・キリストを信じる者の特権です。この特権をもっと使いたいと思います。

二、エパフラスの祈り

では、エパフラスは、コロサイの人たちのためにどん

なことを祈ったのでしょうか。もちろん、コロサイの人々に、必要なものが与えられ、日々の生活が支えられるように、また、それぞれが罪を赦していただき、また互いに赦し合うことができるように、そして、さまざまな誘惑から守られ、悪から救い出されるようにと祈ったことでしょう。日毎の糧、赦し、そして誘惑と悪からの守りと救い。これらは、イエスご自身が、「主の祈り」で、日々に祈るように教えてくださったもの、私たちに必要で、大切な祈りです。

エパフラスは、そうしたことを祈った上で、さらに、一人ひとりが「完全な人」になるように祈りました。「完全な人」と言われると、「そんな人などいない」と思ってしまいますが、ここで「完全な人」と訳されている言葉は、コロサイ 1:28 で「すべての人を、キリストにある成人として立たせるため」と言われている「成人」と、もとの言葉は同じです（τέλειος）。新改訳２０１７では 1:28 も、4:12 も「成熟した者」と訳されており、このほうが分かりやすいと思います。

人はイエス・キリストを信じることによって、罪を赦され、神の子どもにされます。「罪を赦される」とは、もう罪を咎められることがなく、どんな束縛からも制限からも自由にされたことを言います。「罪人」であった者が、神の前に「義人」と認められるという新しい「立場」を与えられたことを意味しています。

「神の子ども」になるとは、「神の子ども」として愛され、守られ、神の国を受け継ぐ特権を与えられたことを

言います。つまり、「罪の奴隷」であった者に「神の子ども」としての新しい「身分」が授けられたということです。

イエス・キリストを信じる者は、聖霊によって神から生んでいただいたとき、「神の子ども」としての「性質」も与えられました。「古い人」が死に、新しい性質を持つ「新しい人」が生まれたのです。

イエス・キリストを信じる者には新しい「立場」、新しい「身分」、そして新しい「性質」が備わっています。信じる者は、イエス・キリストによって、あらゆる面で新しくされたのです。

しかし、与えられた新しい性質が表れるには時間がかかります。生まれたばかりの赤ん坊は、最初はミルクしか飲めず、寝返りもできません。堅いものも食べることができるようになり、自分で立って歩けるようになるには、何ヶ月もかかるのです。両親や兄弟とだけしか関わりを持たなかった子どもが、やがて幼稚園や学校に行き、家族以外の人たちと交わり、友だちを作るようになるのには数年かかります。赤ん坊のときに、すでに性質や能力が備えられているのですが、それが引き出され、外側に表れてくるには時間が必要です。神の子どもも、最初からおとなで生まれるのではありません。最初は誰もが霊的には赤ん坊です。信仰の生活を続けるうちに、神の子どもとしての性質が成長し、霊的なおとな、「成熟した者」になっていくのです。エパフラスの祈りは、コロサイのキリスト者一人ひとりが、いつまでも赤ん坊

のままでなく、小さな子どものようにわがままでなく、霊的に成長していくようにとの祈りでした。

　エパフラスはまた、コロサイのキリスト者が「神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう」とも祈りました。「成熟した者になる」ためには、「神のすべてのみこころ」を知り、確信していることが不可欠だからです。では「神のすべてのみこころ」とは何でしょうか。聖書のすべてを何度も読み、それを頭に叩き込みということでしょうか。そうではありません。使徒 20:27 に「私は、神のご計画の全体を、余すところなくあなたがたに知らせておいたからです」とあるように、それは、神の救いの計画の全体のことです。神の救いのご計画は、天地創造の前、永遠のはじめから立てられており、新天新地が造られることによって完成します。そして、その救いの中心はイエス・キリストです。私たちが知らなければならないのはイエス・キリストの救いの全体像です。そのことを整理してしっかり理解しておきましょう。

　私は子どものころ、年上のティーン・エージャーは何でも知っていると思っていました。ところが、自分がその年齢に達してみると、そうではないことが分かりました。大学で学べば何でも分かると思っていました。けれども、本当に知りたいことは何も学べませんでした。学べば学ぶほど、自分は何も分かっていないことに気付きました。自分では少しは成長したと思っても、次から次へと自分の未熟な面が見えてきました。ですから、「私

は成熟した者になった。もう成長の余地はない」、「私は神のみこころを悟った。もう誰からも教えてもらう必要はない」などと言うことはできる人は誰もいないのです。聖書がいう「成熟した者」とは、「成熟を目指し続ける人」のことです。また「神のすべてのみこころを知る」とは、「みこころを求め続け、学び続ける」ことであると言うことができると思います。

最初から成長を諦めたり、もう十分に成長したと言ってそこで立ち止まってしまうなら、「霊的な成長」も「みこころを知る知識」も、そこでストップしてしまいます。私にバプテスマを授けてくださった牧師先生は、「信仰とは、坂道を自転車で登っていくようなものだ。自転車のペダルを踏んでいなければ、後ろに下がってしまう。前進がなければ、後退しかない」と教えてくださいました。その言葉はいつも私の心の中にあり、私を励ましてくれています。

三、エパフラスの苦闘

さて、エパフラスがコロサイの人々のために何を祈ったかを学びましたので、つぎに、そのことをどう祈ったかを見ておきましょう。12 節に「彼はいつも……励んでいます」とありますが、ここで「励んでいる」と訳されている言葉（ἀγωνίζομαι）はコロサイ 1:29 でも使われています。そこでは「このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています」とあって、「奮闘する」と訳されています。これは英語の agonise（苦悶する）のもとになった言葉です。エ

パフラスは、人々の成長のために、うめくようにして祈っていたことが分かります。このことは、ローマ 8:26 の言葉を思い起こさせます。こうあります。「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。」私たちが誰かのためにとりなし祈るのは、イエス・キリストが天で私たちのためにとりなしてくださるから、また、聖霊が私たちの内にあってとりなしてくださるからです。そして、私たちが真剣にとりなし祈れば祈るほど、私たちの祈りは聖霊のとりなしと一つとなり、聖霊とともにうめくほどの深い祈りへと導かれるのです。エパフラスはそのような祈りを日々ささげていました。

エパフラスはコロサイに始めて福音を届けた人、コロサイの教会の創設者とも言える人でした。彼はパウロに仕えるためローマに来ていましたが、彼の心はいつもコロサイの人々とともにありました。子どもの成長を願わない親がないように、エパフラスもコロサイのキリスト者の霊的な父として、その霊的な成長のため祈り続けたのです。

このエパフラスの祈りに、おそらくパウロも加わっていたと思われます。コロサイ 1:9 にある「どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように」との祈りは、エパフラスが祈ったこととほぼ同じです。パウロ

も、エパフラスも、一緒にいた人たちも、一致してキリスト者の成熟のために、苦闘し、奮闘し、うめくようにして祈ったことでしょう。私たちもそうした祈りに加わりましょう。もし、まだそのような祈りをしたことがなければ、きょうから、自分の成長のために、互いの成長のために祈り始めましょう。すでにそのことを祈ってきたなら、より一層、その祈りを深めていきましょう。神は祈りに答えてくださいます。うめき祈り、奮闘したことは必ず報われ、素晴らしい結果となって返ってきます。そのことを信じて祈りましょう。

（祈り）

父なる神さま、あなたは、私たちの霊的な成長を願い、そのために必要なものをすべて備えてくださいました。御子イエス・キリストは私たちの成長のゴールであり、聖霊は私たちの成長の力、聖書はそのための糧です。成長の遅い者たちをも、あなたは忍耐を持って見守り、励ましてくださっています。きょう、教えられたように、私たちは、成長を願い、祈ることによって、あなたの恵みに答えます。なお、私たちを導き、助けてください。主イエスのお名前で祈ります。

感謝の生活
コロサイ 3:15-17

3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。
3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。
3:17 あなたがたのすることは、ことばによると行ないによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。

一、感謝は命令

"It's not happiness that bings us graditude. It's gratitude that brings us happiness."（私たちに感謝をもたらすのは、幸福ではない。私たちに幸福をもたらすのは感謝である）聖書の言葉ではありませんが、味わい深い言葉です。聖書も、感謝が祝福をもたらすことを教え、私たちにまず感謝するように命じています。

詩篇には「主に感謝せよ」という言葉が何度も出てきます。たとえば、詩篇 107 篇では、1 節に「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」とあって、8 節、15 節、21 節、31 節に「彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ」という言葉が繰り返されています。

新約聖書も同じです。最も良く知られているのは、テサロニケ第一 5:16-18 でしょう。「いつも喜んでいなさ

い。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」喜び、祈り、感謝することが命じられています。そうです、それは命令です。今、喜べないと思ったとしても、とても祈れないと感じても、感謝すべきことが見えなくても、とにかく「喜び」、「祈り」、「感謝する」ことが教えられています。

物理学に「慣性の法則」というものがあります。物体に力が加えられないかぎり、静止している物体は静止し続け、動いている物体はそのまま動き続けるというものです。たとえば、車を急発進すると、乗っている人はうしろに倒れます。人が静止したままでいようとするのに、車のほうが先に進んでしまうからです。逆に、車が急停止すると、乗っている人は前のめりになります。ステアリングホィールやフロント・グラスにぶつかったりしかねません。ですからシートベルトやエアバッグが必要になるのです。また、車も、一旦動きはじめれば、もし、摩擦や抵抗が何もなければ永遠に動き続けます。ブレーキの必要なわけが分かります。

同じようなことは、人の心理の中でも起こります。私たちが長い間同じことを繰り返しているとそれが固定観念になり、習慣になり、そこから抜けられなくなるのです。何か嫌なことがあるとすぐに怒る、誰かが一つの失敗をしたら、それでその人のすべてを否定してしまう。自分が失敗したときには、いつまでも自分を責めて、失

望、落胆してしまう。そうしたことはみな、物事が起こるたびにしてきた反応が積み重なって生まれたもので、たいていの場合、それは否定的、消極的なものです。

猫をゲージに入れ、入り口を閉めると、猫は、もうそこから出られないと観念し、ゲージの中で入り口が開くのを待ちます。ゲージのシェルを取り外しても、猫は目の前の蓋にだけ注目し、そこから出ようとしないのです。私たちも目の前の問題だけしか見ず、イエス・キリストがそこから解放してくださっていること、また、救い出してくださることを見落としていることがあります。

そうした固定観念や束縛を打ち破るものが「感謝」です。聖書が「感謝せよ」という通り、まず感謝する。とにかく感謝する。そこから問題の解決が生まれます。

二、感謝は可能

しかし、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい」と言われても、喜べないこともあり、祈れないときもあり、感謝が湧いてこないこともあるでしょう。「いつも」、「絶えず」、「すべての事」と言われても、そんなことは、とうていできません。けれども、自分の力ではできなくても、イエス・キリストにあっては、それが可能になるのです。聖書は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい」と言うだけでなく、その後に、「これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」と付け加え

ています。「キリスト・イエスにあって」、この言葉が大切です。自分ではできないことも、イエス・キリストにあってはできます。イエス・キリストがそれをさせてくださるのです。

私たちは、自分の力では、苦しみを受けてまで、それを喜ぶことはできません。しかし、イエスは苦しめられることがあっても、それを喜べと言われました。マタイ5:11-12 にこうあります。「わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどりなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのだから。」ここには、私たちが喜ぶことができる理由があります。天の報いがあるからです。たましいの救いがあるからです。財産が奪われ、身体が傷つけれることがあっても、だれも、私たちのうちにある救いの喜びを奪うことができないからなのです。

また、私たちは、自分の力では、祈り続けることができません。思い煩いにとらわれたり、疑いに押しつぶされたり、忙しさの中で疲れ果ててしまったりするからです。そうなると、「神は、もう私の祈りには聞いてくださらないのだ」と思い込み、祈ることをやめてしまうことがあります。しかし、イエスは言われました。「あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになる。」（ヨハネ 15:16）イエスのお名前によって祈る祈りはかならず聞かれると約束されたのです。私たちは、キリストの名で呼ばれている

者、イエス・キリストのお名前を持っている者です。どんなときでも、そのお名前を呼んで祈ることができるのです。

私たちは、自分の力では、すべてを受け入れ感謝することはできません。「こんなことは感謝できない」と思ってしまうのです。しかし、キリストは、私たちの目を開いて、私たちがどんなに大きな恵みを受けているかを見せてくださいます。私たちにとってほんとうに必要なもの、大切なもののすべては、じつは、私たちが自分の力で勝ち取ったものではありません。みな、恵みによって受けたものです。この命も、命を支える空気も水も食べ物もみな恵みです。家族も、友も、教師も、医師も、社会を支えるために働いているすべての人もみな恵みです。誰一人欠けても、今の私はなく、毎日の生活は成り立ちません。

そうした恵みに加えて、私たちに与えられている最高の恵みは、イエス・キリストによる救いの恵みです。罪に罪を重ねてきた過去の一切が赦されている。こんなに小さな者が神の子どもとして受け入れられ、神に愛されている。地上でも祝福され、天にはなお大きな祝福が待っている。

しかも、私たちが受けている豊かな祝福は、イエス・キリストが天の栄光を捨てて貧しくなったことによって与えらたものなのです。私たちの罪が赦されているのは、イエス・キリストが十字架でその血を流してくださったからです。私たちが受けている祝福は、イエス・

キリストが進んで「のろいの木」である十字架にかかってくださったからです。私たちが、今、永遠の命によって生かされているのは、イエス・キリストがその命を捧げてくださったからです。キリストのへりくだり、苦しみ、悩み、そのお身体に受けた傷のひとつひとつ、それらすべては私たちを救い、癒やし、生かすためのものだったのです。こんな恵みを受けていて、それでも、感謝できないことがあるでしょうか。「キリストにあって」て救われている私たちは喜び、祈り、感謝しないではおれないのです。「キリストにあって」そのことができるのです。

三、感謝が始め

テサロニケ第一には、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい」と、「喜び」、「祈り」、「感謝」の順で書かれていますが、「喜び、祈り、感謝する」ことができるようになるためには、まず、「感謝」から始めるとよいと思います。「感謝」があれば、その後に「祈り」が続きます。そして、祈りは私たちを「喜び」に導きます。

コロサイ人への手紙には7回、「感謝」という言葉が出てきます。まず、1:3、1:12、2:7に1回づつ。次に3:15-17に連続して3回。最後は4:2にあります。こうした箇所を見ただけも、感謝がどれほど大切かが分かります。そして、感謝から物事が始まることも分かります。「感謝の心を持つ人になりさい」、「感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい」、「主によって父なる神に感謝

しなさい」。もう説明は要りません。実行があるだけです。

（祈り）

主なる神さま、あなたはイエス・キリストにより私たちに救いの恵みを注ぎ、私たちに「感謝」を教えてくださいました。私たちは、何度も「感謝」を教えられながら、それを忘れやすい者たちです。どうぞ、私たちに「主に感謝せよ」と命じてください。私たちはあなたに感謝を捧げ、感謝の心をもってすべてを行います。私たちのこの決意を、キリストにあって支え、守ってください。イエス・キリストのお名前で祈ります。

Penguin Club
www.penguinclub.net